

学びの直送便

この夏、センター初となる免許状更新講習を実施しました。延べ348名の受講となりました。その様子を紹介します。

ma1

認知発達と授業づくり講座 ～理科教育実践を通して～

講師：京都教育大学 谷口 和成 教授

「見方・考え方」のうち、「考え方」にあたる「思考力を育む鍵」となる力(シエマ)をどのように身につけ、児童生徒がその有用性を実感できるようにするにはどうしたらよいかについて考えました。認知発達の段階によって、必要となる「考え方」はより高度なものへと積み上げられていくということや、授業の準備に向けた視点や発問等、様々なヒントを得ることができました。他教科・領域を専門とされている先生方、そして、小、中、高等学校、特別支援学校の先生方と幅広い交流ができました。



活動の様子

ma2

情報活用能力育成講座 ～ICT・情報モラル・メディアリテラシーを学ぶ～

講師：常葉大学 佐藤 和紀 講師

鳥取県情報モラルエドゥケーター 今度 珠美

新学習指導要領で「学習の基盤となる資質・能力」として示された「『情報活用能力』におけるメディア・リテラシーの育成」や「コンピテンシーのベースに変わっていく学習」等について学びました。さらに、「メディア・リテラシーと人権」の観点からも、事例をもとに学ぶことで、より理解を深めました。その後、「SNSによるコミュニケーションと災害時の情報発信」というテーマで模擬授業が行われ、様々なことを学びました。



研修の様子

ma3

教育相談<初級>講座

ma4

～児童生徒理解と関わり～ 【領域①②③】

講師：京都光華女子大学 徳田 仁子 教授

児童生徒や保護者を理解するためには、その人が置かれている客観的な状況からの理解(外側からの理解)だけでなく、その人の主観的な面についての理解(内側からの理解)が必要です。特に心の中で起きている葛藤を理解することの大切さを学びました。心の内側では様々な感情や欲求が複雑に絡んでいるものです。相手の立場に身を置き、相手の心がこちらに伝わってくるのが肝心であることを、ロールプレイを通して体験的に学ぶことができました。



演習の様子

ma5

特別支援教育「学習障害(LD)のある児童生徒への指導・支援」講座

講師：星槎大学大学院 伊藤 一美 准教授
発達ルームそら 河村 暁 代表

読み書きや計算に困難のある児童生徒への効果的な指導・支援の在り方について理解を深めました。読み書きや計算の困難さの背景には「ワーキングメモリ(さまざまな課題の遂行中に一時的に必要な記憶であり、そうした記憶の機能やメカニズム、それを支えている構造)」が関わっていることや、本人の得意な学び方を見つけ支援していくことの大切さを学びました。



研修の様子

「キャリア教育推進講座(小学校6年生対象プログラム)」を実施します!

今年度開設した中学生・保護者・教職員対象「キャリア教育推進講座」に、1学期、多くの申込をいただきました。現在、2・3学期の申込を受け付けています。

この度、小学校6年生対象のプログラムを新たに実施します。申込方法や実施内容の詳細については地域教育支援部(0773-43-2934)にお問い合わせください。

講座テーマ「中学生になる前に」

「自分を好きになること」、「夢を持つこと」など、中学校入学前に考えておきたいことや大切にしたいこと等について学びます。





動画コンテンツの活用で 校内研修が充実！

総合教育センターだより7月発行号で紹介した「Webコンテンツを活用した校内研修の活性化」について、宇治市立北宇治中学校の実践を紹介します。校内研修を充実させる事例のひとつとして参考にしてください。



活用Webコンテンツ「NITSのオンライン講座『校内研修シリーズ』」

No.46 「道徳科に求められる評価」

No.58 「『主体的・対話的で深い学び』を見取り、実現する校内研修」

校内研修の流れ



1 「道徳科に求められる評価」の動画視聴で理論を共通理解する



2 グループで1学期の評価を振り返り、評価の在り方を考える



3 「主体的・対話的で深い学び」の動画内容を校内の状況に当てはめ、2学期の指導方法について協議する

Webコンテンツを活用することで最新の情報を速やかに共有し、校内研修を活性化させることができます。独立行政法人国立特別支援教育総合研究所や国立大学法人京都教育大学のWebコンテンツもITECから視聴できますので、ぜひ活用してください。

ITECからのWebコンテンツ視聴はこちら！

http://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/cms/?page_id=435



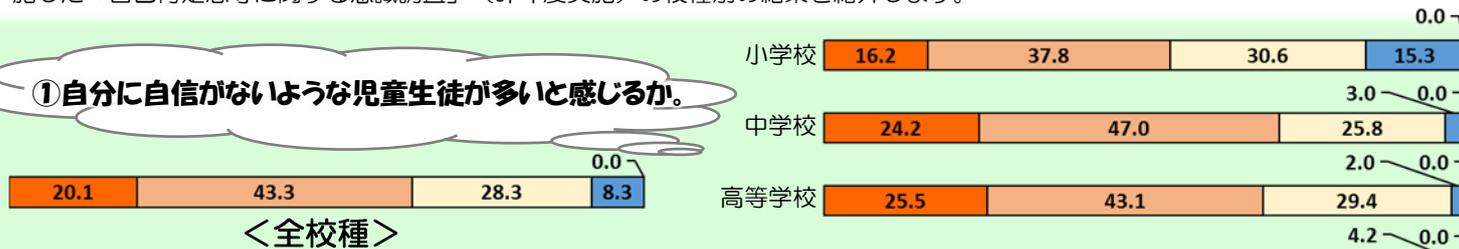
連載「研究最前線」 教育相談部②

「折れない、しなやかな心」を育むために



「『折れない、しなやかな心』を育むために」連載第2回は、7月発行号に掲載した教育相談講座を受講された教職員を対象に実施した「自己肯定感等に関する意識調査」（昨年度実施）の校種別の結果を紹介します。

①自分に自信がないような児童生徒が多いと感じるか。



②失敗を恐れる児童生徒が多いと感じるか。



■感じる □どちらかといえば感じる □どちらともいえない ■どちらかといえば感じない ■感じない

校種別で割合が少しずつ違ってはいるものの、どの校種においても①・②共に「感じる・どちらかといえば感じる」の回答が多く、特に②については全校種で8～9割という結果でした。また、「感じない」の回答が全校種0%であったことも注目したいところです。日々、子どもたちと接している教職員がこのように感じていることは意味深いです。先生方はどのように感じられたでしょうか？10月のセンターだよりでも、他のアンケート項目について詳しく見ていきます。